

## お知らせ

07月の定例活動日：7月19日（月）、9時30分第二駐車場集合、野鳥調査、食害・植生調査、水辺清掃、広場整備など計画しています。

## 活動の記録

6月13日（日曜日）曇 参加は新井、岩崎、鶴沢、占部、大賀、甲斐、坂本（文）、坂本（彌）、高橋、根本、福島、松本、真鍋、村野の会員14名とヒメコマツ研究グループの藤平先生、尾崎、生物多様性センター柳、更に東大千葉演習林の山田教授と久本先生。ニホンシカ調査、照度測定、ヒメコマツとアライグマの学習、野鳥調査、植物調査など、入梅前日、天候に恵まれ存分に活動出来ました。ヒメコマツグループの方々には島対岸の植生など調査の後、豊英島ではヒメコマツ植栽地の植生や、植栽ヒメコマツの状況を調査されました。

○ヒメコマツ植栽地の調査；今回はヒメコマツ植栽試験地の植生調査を行いました。伐開地なので今のところ植生は貧弱で、「コナラ更新林」では主に低木が23種記録され、中でも個体数が多かったのはツクバネウツギとクロモジの2種でした。「岬」の植栽試験地はほとんど裸地でありました。植栽したヒメコマツの苗は枯れたものはありませんが、特に「岬」の試験地の個体はあまり元気がありませんでした。土壌の薄い場所なので、うまく根付いていないのかもしれませんが。また、ツリーシェルター（シカ等による食害防止の囲い）を付けていない個体も食害の痕跡は見られませんでした。ツリーシェルターに副作用（光不足、蒸れなど）の悪影響の方が大きい可能性もあります。これらの観察結果は今後の植栽手法を考えるための重要な手がかりとなります。（ヒメコマツ研究グループ 尾崎記）



○ニホンシカ生息状況調査；調査時間は10時から30分程度、いつものように7コースに別れて、島の入口から西方向と南方向に島内を踏査した。シカの発見はなし。痕跡としては、入り江付近とホテイ岬に足跡、巨木林区域で新しいフン、同じく巨木林区域で最近折られたヤブムラサキ、コバノガマズミが確認された。また、ホテイ岬近くの釣り人が、泳いでいるシカを目撃したと話していたことから、直前まで島内にシカがいた可能性がある。（福島記）

○相対照度測定；11時から昼休みを挟んで午後2時半頃まで、着葉期の相対照度を測定した。測定箇所は、午前中が島内10箇所+ヒメコマツ植栽地2箇所、午後が巨木林調査地2箇所（45点）。今回初めて測定したヒメコマツ植栽地は、上木を伐採したことにより、岬先端が57.5%、コナラ更新林が64.1%と高い値であった。継続して測定している箇所では、コナラ更新林の苗畑が31.8%で最も明るく、次が千年広場で18.0%、マダケ林が13.1%となり、その他の箇所は0.6~8.6%と低かった。千年広場、マダケ林、ヤマユリ保護柵は相対照度が低下傾向にあると思われる。また、巨木林調査地は柵内が平均1.0%（最大1.8%）、柵外が平均1.5%（最大2.3%）と全体的に低かった。（福島記）

○ヒメコマツの学習；「房総のヒメコマツ」（添付）に従って県中央博・尾崎講師から千葉県におけるヒメコマツの現状とその原因、房総半島の地史的、植物地理学的観点からの重要性、保全の取り組み等についてお話頂き、続いて植栽地の標高、照度、乾燥等の環境条件等について若干の質疑応答がありました。（真鍋記）



緑のなかで講義

○アライグマの学習；福島講師の準備資料に従い、アライグマの習性・食性・繁殖・千葉県における分布・生息状況、ハクビシンやタヌキ等との糞や食べ物その他特徴の違いも学習しました。中央博の柳・尾崎さんや藤平先生の情報やご助言も頂き、豊英島における対策について相談した結果；「特定外来生物に指定されているアライグマは本来捕獲駆除すべきではあるが、会による捕獲駆除は事実上不可能なこと、豊英島における被害は

顕在化していないことから、当分の間観察を続け事態を見守る」ことにしました。(真鍋記)

○植物・食害調査；大賀先生は主に未確認種の植物調査と未調査種の食害調査を実施されました。多くの未確認種の自生が確認されたほか、イチヤクソウ科の常緑低木ウメガサソウ、メギ科ヘビノボラズ、マメ科クサネムなど豊英島初確認種も発見されました。植物調査・食害調査ともそれぞれのリストに整理のうえ報告します。(真鍋記)



ウメガサソウ、千葉県要保護生物:C



イチヤクソウ



ツルアリドウシ

ウメガサソウは吊橋下東側の明るい斜面で可憐に咲いていました。林内所々にイチヤクソウが咲いていました。今が盛りです。ほこら山の近くでツルアリドウシ1株だけ見つけました。(坂本文雄記)

○マダケ成長調査；占部さんは保護柵内のマダケ成長量を調査しました。時間不足で保護柵1面残ったため、次回調査します。

### 夜の豊英島は動物の天国



アライグマ(5月号に既報)

10年5月7日3時28分撮影



タヌキ

10年5月17日1時55分撮影



テン(ホンドテン)の雄

10年6月11日23時17分撮影



ハクビシン

10年6月11日23時32分撮影

テンは6月7日20時、9日23時にも撮影されています。県生物多様性センター浅田氏の話では3カットとも同一個体ではないかとのこと。また千葉県内ではテンの良い写真が少なく、貴重なカットになるとのこと。坂本班長の提案で5月にセンサーカメラを吊橋口に移設したのは大ヒットで、豊英島の夜は動物の往来が多いことが分かりました。この他に豊英島にはお馴染みのニホンジカ、ニホンザル、ノウサギがいて、夜は多くの哺乳動物が徘徊する動物の天国になっているようです。(真鍋記)

### ツチアケビ盗み食いの犯人は？



金網をこじ開けて

島入口近くのツチアケビの金網が写真のように地面際でこじ開けられ、3株のうち2株の蕾が食べられ枯れています。昨年も同様の方法で金網をこじ開け、ソーセイジ状に熟した実を全て食べられました。今までツチアケビ食害の犯人はニホンジカが疑われていましたが、この金網の開け方の場合、ニホンジカは無実では？人間でもない。真犯人は誰？アライグマ？タヌキ？テン？ハクビシン？それともニホンザル？ノウサギ？他の動物？なお広場奥の金網内と巨木林調査保護柵内のツチアケビは無事でした。(真鍋記)

○野鳥調査；調査結果は「豊英島鳥類観察記録」に記録の通り合計 13 種を確認しました。

種名の次にある記号は v:目視確認羽数 s:囀り c:地鳴き、です。

オシドリv1 トビv3c ホトギスs コゲラc ヒヨドリv2c ウグイスs サンコウチョウs ヤマガラc  
シジュウカラsc メジロ s カケスv2c ハシボソガラスc ハシブトガラスc

今回のトピックス；つり橋の近くでサンコウチョウの声を聞きました。島の対岸からの声でした。

ホテイ岬の近くの藪に隠れていたオシドリが1羽飛び出しました。先月は沢山見られ場所にカワウが見当たりませんでした。釣人のボートが多かったのでどこかに避難したようです。（坂本文雄記）

豊英島 鳥類観察記録（凡例 v目視羽数 c地鳴き s囀り）

種名	科名	2010年5月5日	2010年5月16日	2010年6月13日
カワウ	ウ科		v13	
アオサギ	サギ科	v1		
オシドリ	ガンカモ科			v1
トビ	ワシタカ科	v48 c	v5 c	v3 c
サシバ	ワシタカ科	c		
コジュケイ	キジ科	c		
キジバト	ハト科		s	
ホトギス	ホトギス科			s
カワセミ	カワセミ科		c	
コゲラ	キツツキ科	c	c	c
キセキレイ	セキレイ科	v1		
ヒヨドリ	ヒヨドリ科	v2 c	v2 c	v2 c
ウグイス	ウグイス亜科	s	s	s
センダイムシクイ	ウグイス亜科	s		
サンコウチョウ	カササギヒタキ亜科			s
エナガ	エナガ科	c	c	
ヤマガラ	シジュウカラ科	c s	c s	c
シジュウカラ	シジュウカラ科	v1 c s	c s	c s
メジロ	メジロ科	c s	c s	s
カワラヒワ	アトリ科	c		
シメ	アトリ科	c	v4	
カケス	カラス科		c	v2 c
ハシボソガラス	カラス科	v3	c	c
ハシブトガラス	カラス科	v2	c	c
合計確認種数		17種	15種	13種

トビの成長観察記

5月22日、6月2日に続き6月13日の3回観察しました。相変わらず、巣の中でジッとしている時間は長いのですが、こげ茶色の羽根もしっかり伸び、体も大部分大きくなり、目も、嘴も、爪もますます鋭くなりました。たまに、巣の縁に立ち止まっています。これから羽ばたきの練習が始まり、早ければ1羽目は今月中に巣立つかもしれません。楽しみです。（高橋記）

